

フォトコンテスト審査会

と き 平成30年10月4日(木)

ところ 山口県医師会6階会議室

[報告:副会長 今村 孝子]

対外広報事業として、「いのち
きずな やさしさ」をテーマにし
たフォトコンテストを今年度も
開催した。9回目となる今回も
山口県内にとどまらず全国各地
の73名の方から、昨年度よりも
23作品も多い169作品のご応募
をいただいた。

今回も審査委員長として、平
成27年に写真集『結界』で第
34回土門拳賞を受賞された写真
家(萩市在住)の下瀬信雄氏を迎え、審査員を
河村康明 会長、林 弘人 副会長、そして広報委員
の堀 哲二 先生、渡邊恵幸 先生、岸本千種 先生、
石田 健 先生、吉川功一 先生、岡山智亮 先生に
お願いした。

審査会当日、会議室に並べられたすべての作
品を見てみると、見る人を明るくさせ、心を癒し
てくれる写真ばかりであった。この中から、最優
秀賞、優秀賞、下瀬信雄賞を各1点、佳作4点、
及び昨年度に新設した、こども賞1点の計8点
の選考を開始した。

審査方法は例年同様、まず、各審査員に付箋を
8枚ずつ配付し、自分が気に入った作品に貼ると
いうものである。各審査員はそれぞれの感性を活
かして、真剣な面持ちで次々
に付箋を貼り付けていった。
第一次審査では、169作品の
中から約30作品が選ばれた
が、力作揃いで年々選ぶのが
大変になっており、下瀬審
査委員長も“非常に甲乙つけが
たい”と仰っていた。選ばれ
た作品を集め、下瀬審査員長
の進行のもと、審査員の協議



により審査が進められた。被写体の表情、構図、
光の使い方だけでなく、それらを通して伝わる
撮影者の「伝えたいメッセージ」がわかる、ある
いは「発見」、「感動」がはっきり出ている作品が
審査員の心を捉えたようである。審査開始から約
40分後、最優秀賞、優秀賞、下瀬信雄賞の各1点、
佳作4点、こども賞1点の各受賞作品が決定した。

なお、受賞作品については11月11日(日)
に開催した県民公開講座(次頁)にて表彰式を行
い、下瀬審査委員長による講評も行っていただき、
応募いただいたすべての作品展示も同時に開催し
た。

ご応募いただいた皆さま、審査員の皆さまに深
く感謝いたします。

